

News Letter Vol.6

看護ケア推進委員会 2018年3月

口腔ケア研修会報告

「口腔内の状況をアセスメントし、個々の患者に応じたケアの実施」を目標に、2017年度も実地指導者を対象に口腔ケア研修会を開催しました。

口腔ケアを通して、ただお口の中をきれいにするだけではなく、食事をしたりお話しをしたりと患者さんのQOL向上を目指しました。研修後、受講生は部署内で取り組み、その成果を、2018年2月24日に発表していただきました。



口腔ケア研修発表～研修生の取り組みの成果～

- *口腔内のアセスメントツールとしてORAL HEALTH ASSESSMENT TOOL (OHAT) について勉強会を行い、口腔内の状態を統一して評価できるようになった。
- *患者の口腔内の状態を前よりも観察するようになった。
- *患者に合わせた口腔ケア方法の検討が大切、統一したケアを継続することの必要性を理解した。
- *根気よく続けることで、舌苔や口腔内汚染も改善した。
- *口腔内筋力の維持・増進に向けて訓練を行った結果、口周りの筋力がついたことで表情が豊かになり、滑舌も良くなった。
- *嚥下機能の観点からもADL回復への早期介入は大切である。
- *口腔ケアは退院後も必要であり、入院期間だけでなく継続していけるような方法を本人・家族・施設職員などと連携しケア方法を構築していく必要がある。



最優秀賞

「口腔ケアの取り組み
～婦人科患者の特徴から見たこと～」
2B病棟 岩下 緑 さん

「義歯着脱が困難であった誤嚥性肺炎の
患者さんとの関わりで学んだこと」
5A病棟 松吉 愛 さん

8月の研修を終え、それぞれが部署内での口腔ケアについて意識されたと思います。

今回の発表するにあたり、日々の看護を振り返り、これまで業務の一連の流れで行っていた口腔ケアも、患者の変化が見えたことで重要な看護ケアであることの再確認もでき、看護実践能力の向上につながったと思います。

受講生の取り組みは様々でしたが、部署内での口腔ケアを見直し、どうすればスタッフの口腔ケアに対する意識が高まるか、統一した方法でケアが行えるか考えたと思います。発表では、今後の課題もあげられていましたが、研修後の取り組みで終わるのではなく、部署の看護を見直し改善しようと取り組んだ内容は、今後も継続していただきたいと思います。

また、師長・係長・主査など、今後も受講生のサポートを行って欲しいと思います。



2018年度は

「がん看護エキスパートナース研修会」を開催します。研修日時や内容は、追ってWEBに掲載しますので、研修対象者でない方も、興味のある方は、聴講してください。お待ちしております。

研修担当：緩和ケア認定看護師 堀尾 美砂
がん化学療法看護認定看護師 一林 三保子

看護ケア推進委員会は来年度も看護の質の向上を目指し、取り組んでいきたいと思っています。また、皆様からの希望や意見もお待ちしておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

看護ケア推進委員会
担当：一林・里内

